



アンケート結果の報告

コロナ対応のあり方の1つに国や自治体の情報発信のあり方が問われています。今回のコロナだけでなく、これからも発生の可能性の高い災害等により早く、精度の高い情報をいかに多くの県民に届けるかは益々重要になってきます。

私もコロナ発生以前から自治体情報の発信について若干疑問を持っていました。そこで3月末から4月末までの1カ月間、自治体発信の情報を県民がどう受け止めているのか、その実態を知るためにアンケート調査をお願いしました。往復ハガキ、インターネットを通じて約1000人の皆様方から回答いただきました。改めて深く感謝申し上げます。

本来6月議会での調査結果をもとに一般質問をする予定でしたが、コロナへの対応に伴い本格的な予算編成が先送り、代表質問も9月定例会に延期することが決定されました。一般質問も質問者数を従来に比べて限定することになり、私の6月議会の登壇もなくなりました。

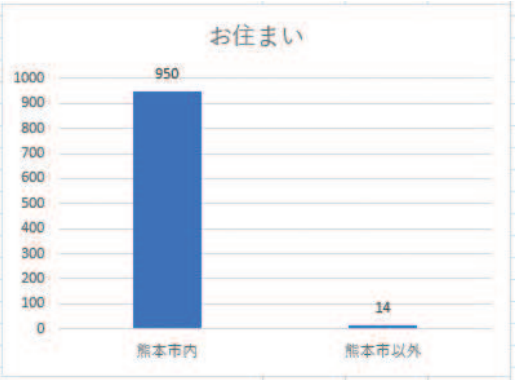
次回質問日時が決まったら、今回回答いただいたアンケート結果をより詳細に分析したうえで質問します。そこで先ずは調査結果の概略をご報告致します。

アンケートの質問内容 有効回答数：969

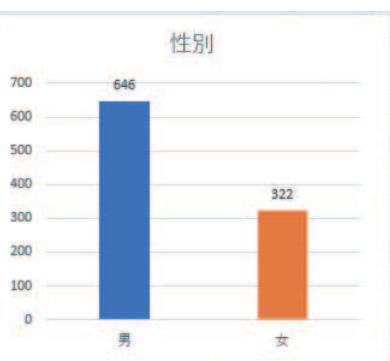
～行政 広報に関するアンケート～
(該当する項目を○で囲んでください)

- 県や市の情報を収集する手段を教えてください。(複数回答可)
 - 新聞
 - テレビ
 - ラジオ
 - インターネット
 - その他
- 熊本県が毎月発行している「県からのたより」を読んだことがありますか?
 - 毎月読む
 - 時々読む
 - 読んだことがない
- 熊本市が毎月発行している「市政だより」を読んだことがありますか?
 - 毎月読む
 - 時々読む
 - 読んだことがない
- 県や市のホームページを見たことがありますか?
 - よく見る
 - 時々見る
 - 見たことがない
- テレビで県や市の広報番組を見たことがありますか?
 - よく見る
 - 時々見る
 - 見たことがない
- あなたは
 - 男性
 - 女性
- お住まいは
 - 熊本市内
 - 熊本市 以外
- 年齢は
 - 10代
 - 20～30代
 - 40～50代
 - 60～70代
 - 80代 以上

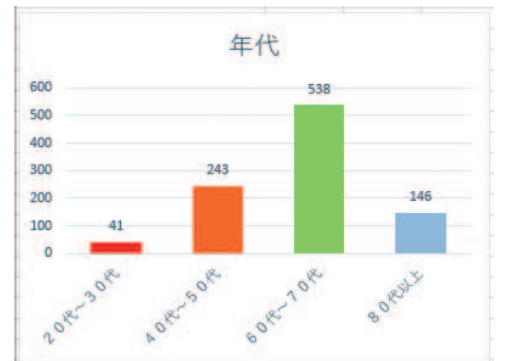
居住地：熊本市内 950名 (98%)
熊本市以外 14名 (1%)
未記入 5名



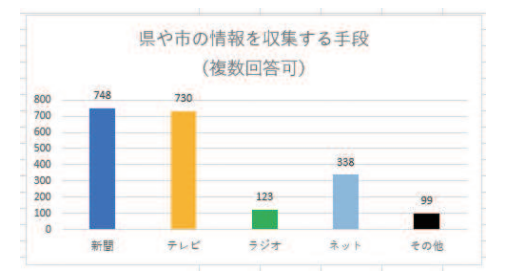
性別：男性 646名 (67%)
女性 322名 (33%)
未記入 1名



年代：20代～30代 41名 (4%)
40代～50代 243名 (25%)
60代～70代 38名 (56%)
80代～ 146名 (15%)



県や市の情報を収集する手段 ※複数回答可
新聞 748名 (77%)
テレビ 738名 (75%)
ラジオ 123名 (13%)
ネット 338名 (35%)
その他 99名 (10%)



その他の回答

【20代～30代】
熊日のLINE、ツイッターSNS、人伝え

【40代～50代】
市政だより、県政だより
熊本市災害情報メール、LINE、SNS
雑誌、熊本経済
Youtube、人伝え

【60代～70代】
市政だより、県政だより
回覧板、趣味の集い
リーフレット
広報誌 (高島)
県議・市議からの広報
市マチイロネット
社会福祉協議会会議
市民センターや公民館
人伝え

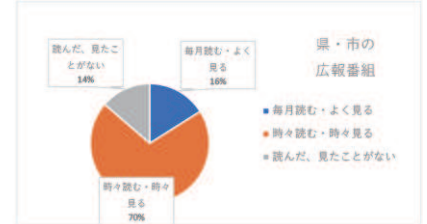
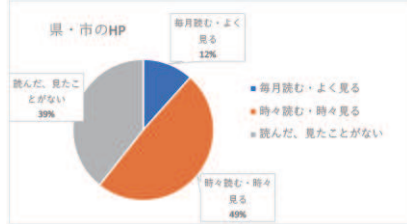
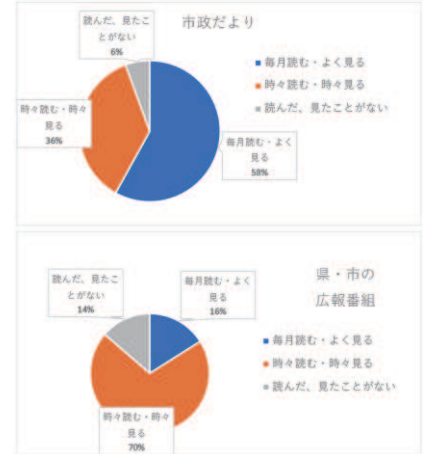
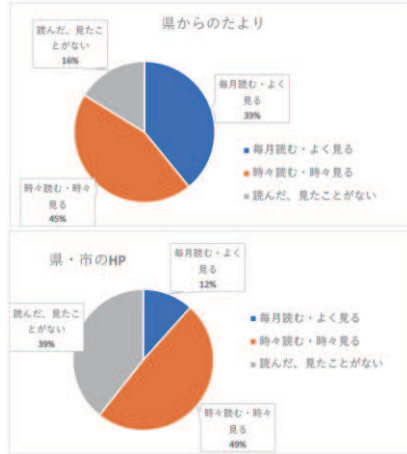
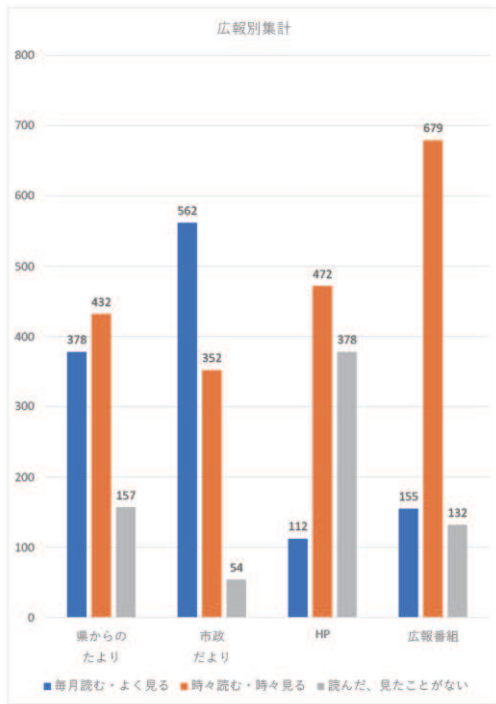
【80代～】
広報誌
病院や集まりの所で
議員のFacebook
機関誌
県、市会議員の広報誌
高島県議の広報誌
人伝え

(裏面へつづく)

(アンケート) 広報別の集計

※未回答分は含めていません

	県からの たより	市政 だより	ホーム ページ	広報番組
毎月読む・よく見る	378(39%)	562(58%)	112(12%)	155(16%)
時々読む・時々見る	432(45%)	352(36%)	472(49%)	679(70%)
読んだ、見たことがない	157(16%)	378(6%)	378(39%)	132(14%)



昨年城南町の自治会長さんから隈庄橋交差点の信号機設置の依頼がありました。交差点は小学校の通学路、しかも城南スマートICが開通したことで交通量とりわけ大型車の通行量が増加したことで地域の不安、危険度が増しているとのことでした。



隈庄橋交差点信号機設置

関係機関と連絡をとって3月に設置工事も完了しました。因みに信号機の設置については県下各地から多くの要望があることから、自民党県議団から執行部に信号機設置予算の増額を要望致しました。今後も危険箇所の解消に取り組んでまいります。

